

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和6年12月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～3）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口でごく弱い噴気を観測しました。昭和4年火口でごく弱い噴気を観測した日数は、2021年頃と比べて明瞭に増加していますが、山麓に設置した監視カメラによる観測では、引き続き、噴気が観測されることはまれであり、明瞭な活発化は見られていません。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図4）

今期間、北海道駒ヶ岳付近の地震活動は低調に経過しました。火山性地震は山頂火口原直下の深さ0～1 km付近で発生しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図5、図6）

GNSS連続観測では、2024年1月以降、特段の変化は認められていません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和7年1月分）は令和7年2月10日に発表する予定です。

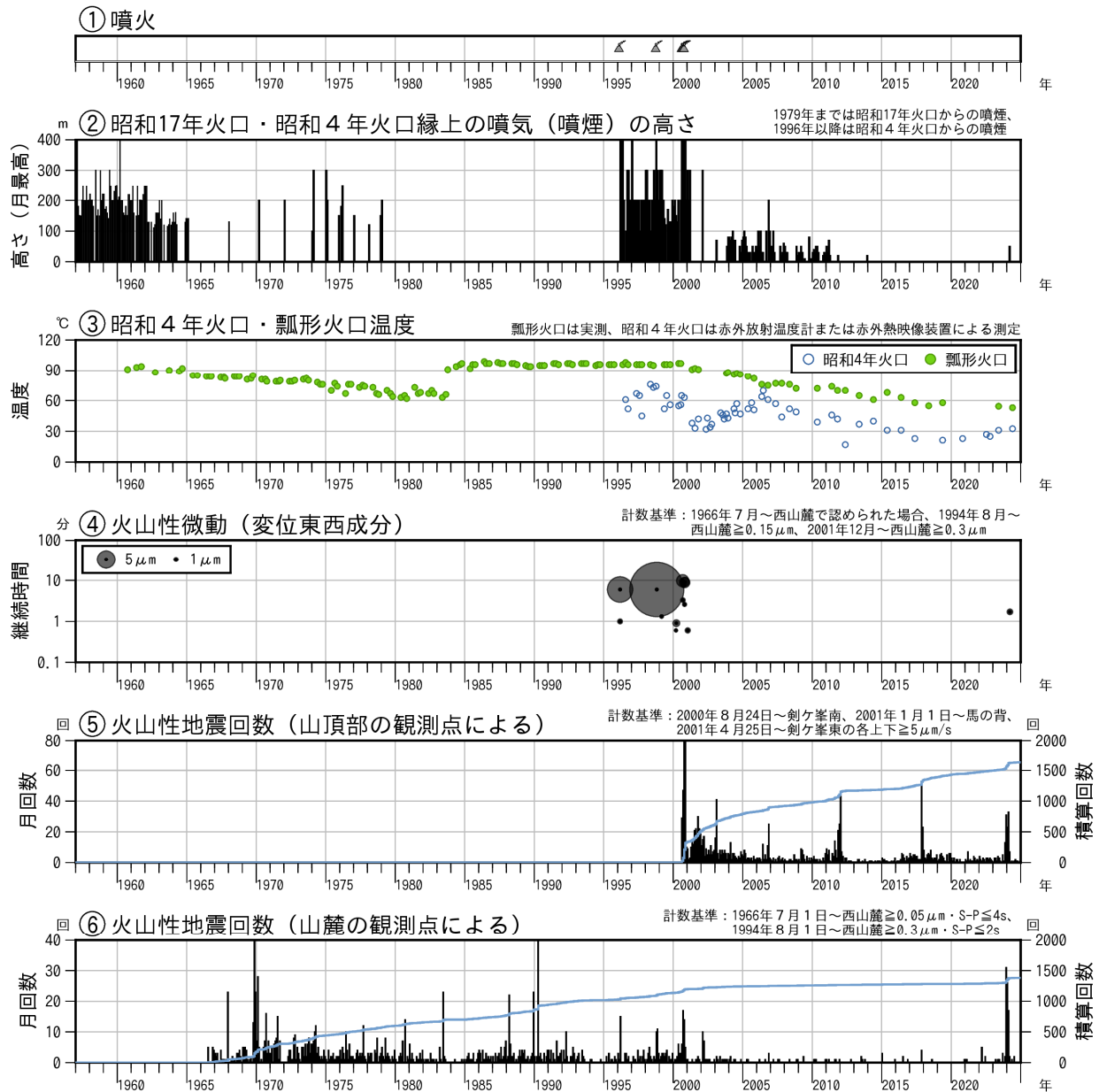


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2024年12月）
各火口の位置は図7、図8を参照してください。

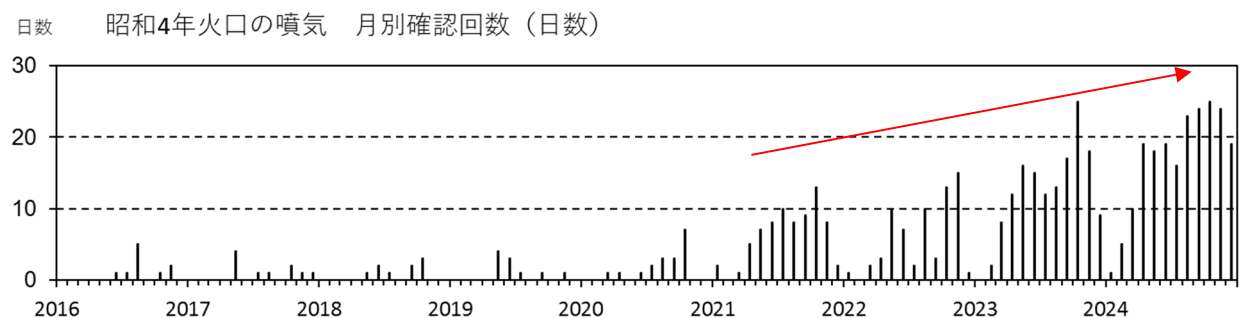


図2 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数（2016年1月～2024年12月）
山頂部に設置した剣ヶ峰監視カメラ及び駒ヶ岳山頂（道）監視カメラ（位置は図7、
図8参照）による観測結果です。
冬季は雪氷付着のため欠測日が多くなる傾向があります。



図3 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

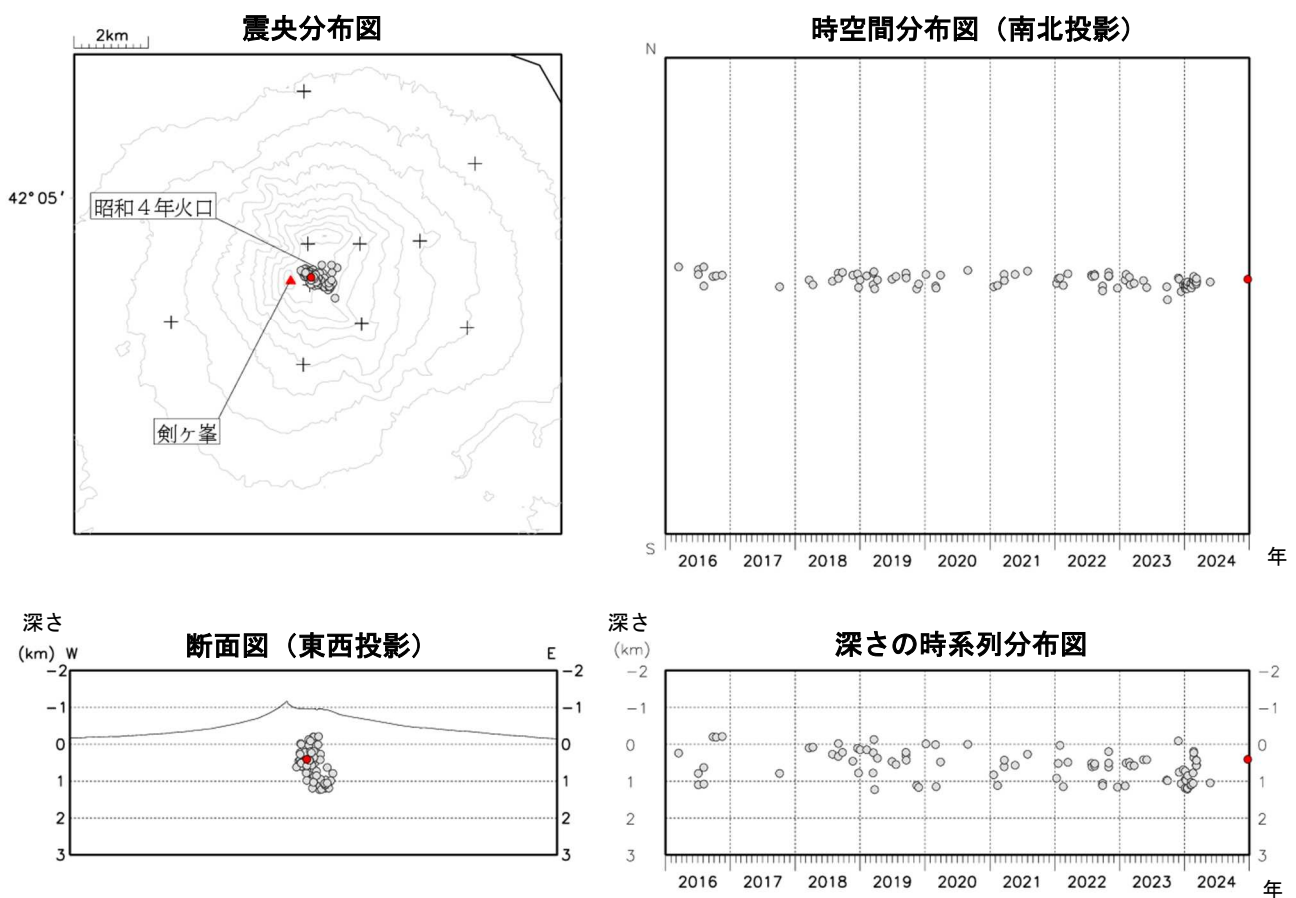


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2024年12月）

● : 2016年1月～2024年11月の震源 ● (red) : 2024年12月の震源 + : 地震観測点

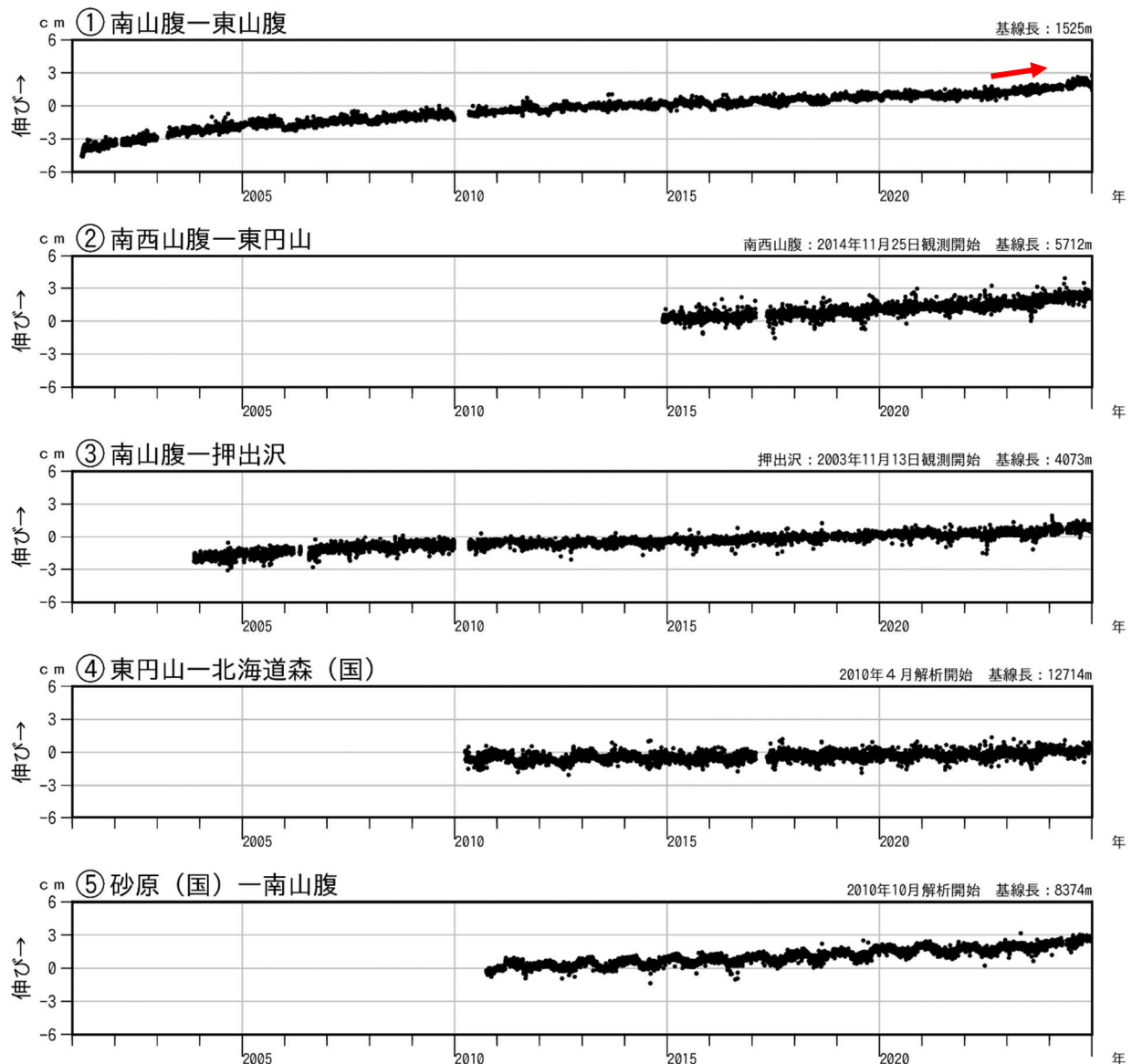


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2024年12月）

グラフ①～⑤は図6の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年1月頃からは概ね停滞しています。

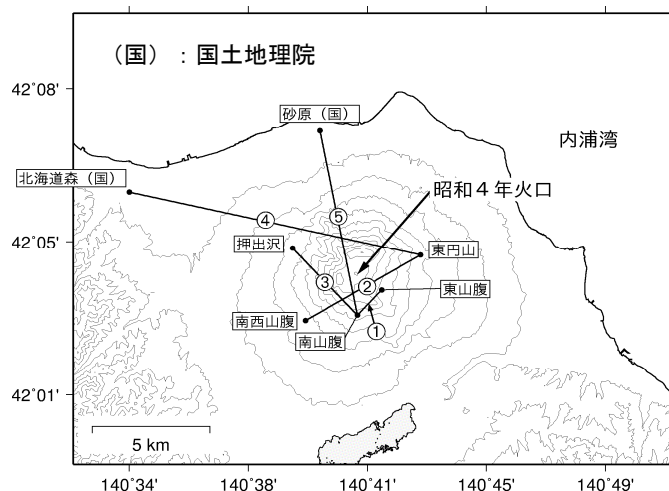


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

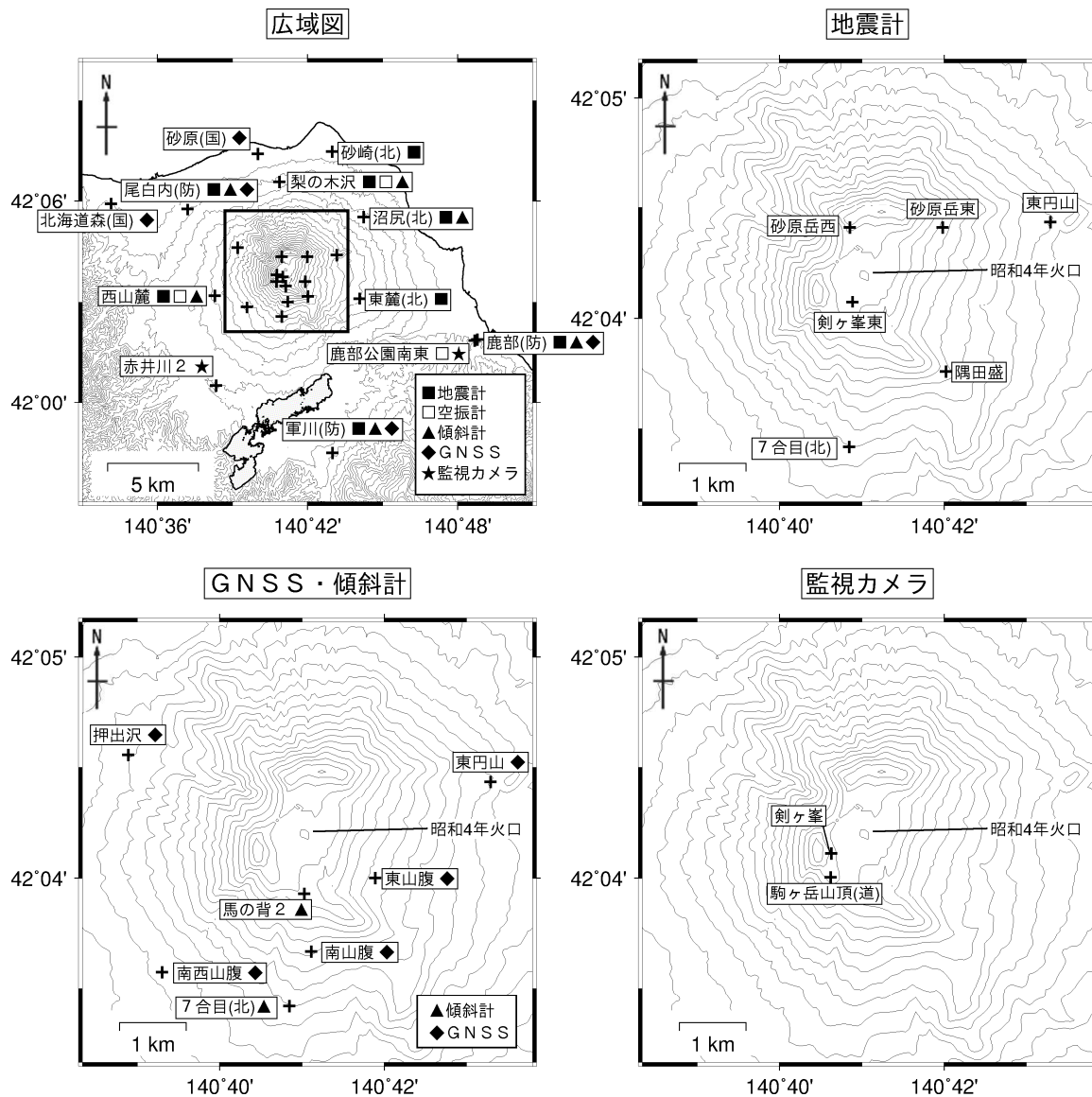


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

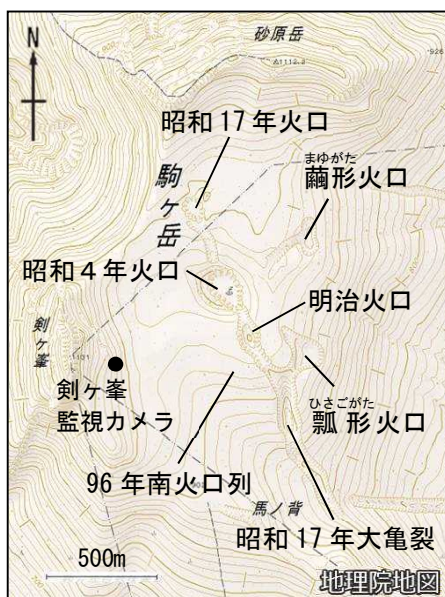


図8 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図